



福知山線脱線事故から16年が経過・・・ 「人」にしかできない労働を守り抜き、安全で 働きがいのある職場を創り出していこう！

2005年4月25日、JR西日本福知山線列車脱線事故が発生し、107名の尊い命が失われた悲惨な事故から16年が経過しました。私たちは二度このような悲惨な事故を起こさないために、福知山線事故を教訓に「安全」が最優先され、そこで働く社員とお客様の「いのち」を守ることを第一に考え、職場から議論をつくりだしてきました。

事故発生当時、JR西日本会社の「日勤教育」を通じた営利優先・運行体質が問題視されました。その教訓は今に活かされているのでしょうか？JR東日本では「新たな輸送サービス価値の創造に貢献できる社員の育成」を目的に新たなジョブローテーションを開始し、現在までに面談で把握した希望を反故にし、他系統への異動など、本人希望に沿わない形で社員を「人」ではなく「物」として扱うような非人道的な強制転勤が行われています。

これにより「安全性」「専門性」「特殊性」が失われようとしています。運転士は国家資格であり、必死にして勉強してきたのに配転させられたりすると、当人のモチベーションは下がってしまう恐れがあります。職種だけではありません、希望もしない職場に変えられたりすることも大きな問題になります。本人が「この線区での勤務を続けたい」と言っても変えられてしまう恐れがあります。路線ごとに特徴がある、ここは速度をこれ位まで落とさなくてはならない。一方、落とし過ぎると定時運行が危うくなるので、あくまでも落とすスピードはこれ位まで…等と一朝一夕にして、その線区で列車を安全に運行できるスキルを身につけられるものではありません。運転士が路線を自分の体のように熟知していればこそ、安全運転と時刻表通りの運転がこれまで実現していました。これらの経験が失われれば、普段の作業の中のいつもと違う僅かな変化に気づくこともできず、事故の目を積むことが出来なくなっていくのではないのでしょうか。

鉄道の安全を守るため、経験に基づく技術・経験が失われればどのような職場になってしまうかを掘り下げ、問題点を明確にしていく事が課題です。職場からの安全検証議論を通じて私たちの考える施策のあり方を要求として高め、実現のために結集していきましょう！